

中野区総合教育会議 次第

- 1 日 時 令和4年(2022年)11月4日(金) 午前11時から
- 2 場 所 区役所7階第8・9会議室
- 3 出席者 (構成員)
区長
教育委員会教育長、委員
(関係職員)
青山副区长、横山副区长、企画部長、総務部長、子ども教育部長・教育委員会事務局次長、子ども教育部子ども家庭支援担当部長・教育委員会事務局参事(子ども家庭支援担当)、総務部総務課長、子ども教育部・教育委員会事務局子ども・教育政策課長、教育委員会事務局指導室長、区民部文化国際交流担当課長
- 4 議 題 中野区教育大綱の改定について

中野区教育大綱(改定素案) について(案)

(はじめに)

今、私たちを取り巻く環境は、長引く新型コロナウイルス感染症による生活・経済への影響や、不安定化する国際情勢など、先行きが不透明で、将来の予測が難しいものとなっています。

これまでの日常が失われる中で、コミュニケーションや体験学習の機会が減るなど、子どもたちの学びを取り巻く環境にも大きな影響が出ています。

グローバル化が進む中で、世界的な諸課題についても、自らに関わるものとして捉えていく視点が必要となってきています。

加えて、デジタル化の進展など、地域の課題を解決しながら新たな価値をつくる、超スマート社会(Society5.0)を目指した取組も急速に進んでいます。

中野区は、数多くの国と地域からの人や、性的マイノリティ、障害のある人など、様々な個性や価値感を持つ人が暮らす、多様性にあふれたまちです。

また、子どもから高齢者まで、すべての世代が文化や芸術に親しみ、地域における学びや社会活動にも参加しながら、つながりを築いてきたまちでもあります。

誰一人取り残されることのない、安心できる地域社会を実現していくため、子どもたちの学びを地域全体で支え、ともに学びを進めていくことが重要です。

このようなまちの実現のため、この教育大綱を、中野の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や施策の根本となる方針として定めます。

令和 年 月 日

中野区長 酒井 直人

(基本理念)

中野のまちの強みを生かし、一人ひとりの「生きる力」を高めしていくため、新たな中野区教育大綱では、「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」を基本理念とします。

- 学校や地域で、誰もが「自分らしく」学べる。
- 学びや参加の中で、人と人が「つながる」。
- そして、つながりの中で、「新たな活力」が生まれる。

(方針)

第1 誰もが『自分らしく』学べる教育の推進

～ 全員が参加できる社会の実現を目指し、学校・地域での学びを支援する ～

自己肯定感やチャレンジする力、学び合う心や健やかな身体が育つとともに、学びの場を通して社会参加が進み、自分らしく生きられるまちを築けるよう、学校教育や社会教育の場において、個性や学び合いを生かした教育を推進します。

第2 中野らしさを生かした教育の推進

～ 多様性と地域のつながりを強みにした教育を実現する ～

自己と他者への理解が進み、多様性が尊重され、地域とのつながりで子どもの「生きる力」が育つよう、学校と地域の連携、教育に関わる人材の育成などを進めます。

第3 学びの環境の整備

～将来にわたって学び続けられるよう、より良い教育環境を整える～

学びの場が確保され、誰にも学ぶ機会が保障されるとともに、文化・芸術・スポーツに親しめるよう、施設などの着実な整備や多様な学びの場づくりを進めます。

【基本理念】

「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」
～学校や地域で、誰もが自分らしく学べる。学びや参加の中で、人と人がつながる。
そして、つながりの中で、新たな活力が生まれる～

【方針1】 「中野らしさ」を生かした教育を推進する

～「多様性」と「地域のつながり」を強みにした教育を実現する～
(めざす姿) ・自己と他者への理解が進み、多様性が尊重されている
・地域とのつながりで、子どもの「生きる力」が育っている
(方向性) 学校と地域との連携、教育人材の育成等

【方針2】 誰もが「自分らしく」学べる教育を推進する

～全員が参加する社会の実現をめざし、学校・地域での学びを支援する～
(めざす姿) ・自己肯定感や、チャレンジする力が育っている
・学び合う心が育っている
・学びの場を通して社会参加が進み、自分らしく生きられるまちが築かれている
(方向性) 学校教育及び社会教育、個性を生かした教育の推進等

【方針3】 学びの環境を整備する

～将来にわたって学び続けられるよう、よりよい教育環境を整える～
(めざす姿) ・学びの場が確保され、誰にも学ぶ機会が保障されている
・文化・芸術に親しめる環境が整っている
(方向性) 施設などの着実な整備、多様な学びの場づくり等

1 総合教育会議（7月29日）での主な意見

(1) 基本理念について

- ・一人も取り残さないというところが、うまく表現がされていて、もっと積極的に自分らしく学べるというところが良い。
- ・お互いに影響し合う中で、学びが支えられ、創造性があるまちということで、わくわくするような、フレーズである。
- ・「自分らしく学べる」は、学び方や学ぶ内容、個を伸ばす教育も表現されている。
- ・「つながり」は未来へのつながりも想像させ、広がりがある。
- ・自分らしく学べるということは、健康な子ども、大人、あるいは障害のある子どもなどが読んでも、納得できる。
- ・学ぶことや参加することそのものが、地域の活性化に結びつくという部分がよい。

(2) 方針1 誰もが「自分らしく」学べる教育の推進

- ・主語が、区長なのか、地域の皆さんなどになるのかなど、整理した方がよい。
- ・「全員が参加する」という表現だと、強制で参加しなければならないととらえられる可能性がある。参加も「自分らしく」「参加できる」とした方がよい。
- ・ライフスキル（日常の問題に建設的・効果的に対処する力）も含めた教育という視点を盛り込んでほしい。
- ・方針の1と2を入れ替えた方がよい。

(3) 方針2 「中野らしさ」をいかした教育を推進する

- ・教員や地域の人々も子ども達と共に学び合えるというような方向性で検討を進めてほしい。
- ・「大人も学びの楽しさを感じている」という表現が加わると区民全体の教育だと明確になる。
- ・子どもの主体性が認識されている。「生きる力」のところに、子どもの「地域参加」も示されるとよい。
- ・今後は、学校と地域は「連携」のみではなく、「一体化」していくようなイメージがある。「連携」で終わらせないでほしい。

(4) 方針3 学びの環境を整備する

- ・地域の方々の健やかな生活を支えるという意味では、文化・芸術に加え、「スポーツ」という言葉を含めた方がよい。
- ・学校教育と社会教育の垣根をなくしていくことができる、という発想なら先進的になるかもしれない。
- ・文化・芸術やまちの伝統に触れあったり、親しめる環境、参加できる環境が大事である。

2 区民と区長のタウンミーティング（8月24日）での主な意見

（テーマ 中野の教育について ～教育大綱の改定に向けて～ ）

- ・大綱の理念には、時代の変化をとらえるような表現を入れた方が良い。
- ・子ども達だけでなく、全ての区民が関係する社会教育や生涯学習を充実させてほしい。
- ・子ども達の興味や関心の分野から、自ら選び決めることができる教育の場を確保してほしい。
- ・主体性、主権者教育の場の確保が必要である。
- ・「中野らしさ」を活かした教育を推進してほしい。
- ・年齢、国籍、性のあり方及び障害の有無に関わらず、相互理解・多様性が尊重されることが重要である。
- ・コロナウイルスによって失った、学校、家庭及び地域のつながりを取り戻す必要がある。
- ・教員の働き方改革や、メンタルヘルスケアなど、教員自身の余裕と子どもと関わる時間を増やすことが必要である。
- ・学生や民間企業の人も教育に参加してほしい。
- ・孤立しがちなコミュニティ（LGBTQや外国人）とのつながりや交流の機会の創出が課題である。
- ・図書館、児童館及び空き家を活用して、保護者・子ども達の居場所を多く確保することが必要である。

令和4年度 第2回 中野区総合教育会議

議題：中野区教育大綱の改定について

- 1 前回の総合教育会議について
- 2 区民と区長のタウンミーティングの開催結果について
- 3 中野区教育大綱(改定素案)について(案)

令和4年11月4日(金)

【基本理念】

「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」
～学校や地域で、誰もが自分らしく学べる。学びや参加の中で、人と人がつながる。
そして、つながりの中で、新たな活力が生まれる～

【方針1】 「中野らしさ」を生かした教育を推進する

～「多様性」と「地域のつながり」を強みにした教育を実現する～

(めざす姿) ・自己と他者への理解が進み、多様性が尊重されている

・地域とのつながりで、子どもの「生きる力」が育っている

(方向性) 学校と地域との連携、教育人材の育成等

【方針2】 誰もが「自分らしく」学べる教育を推進する

～全員が参加する社会の実現をめざし、学校・地域での学びを支援する～

(めざす姿) ・自己肯定感や、チャレンジする力が育っている

・学び合う心が育っている

・学びの場を通して社会参加が進み、自分らしく生きられるまちが築かれている

(方向性) 学校教育及び社会教育、個性を生かした教育の推進等

【方針3】 学びの環境を整備する

～将来にわたって学び続けられるよう、よりよい教育環境を整える～

(めざす姿) ・学びの場が確保され、誰にも学ぶ機会が保障されている

・文化・芸術に親しめる環境が整っている

(方向性) 施設などの着実な整備、多様な学びの場づくり等

1 前回の総合教育会議（令和4年7月29日）

■主な意見

（基本理念）

- ・ 一人も取り残さないというところが、うまく表現がされていて、もっと積極的に自分らしく学べるというところが良い。
- ・ お互いに影響し合う中で、学びが支えられ、創造性があるまちということで、わくわくするような、フレーズである。
- ・ 「自分らしく学べる」は、学び方や学ぶ内容、個を伸ばす教育も表現されている。
- ・ 「つながり」は未来へのつながりも想像させ、広がりがある。
- ・ 自分らしく学べるということは、健康な子ども、大人、あるいは障害のある子どもなどが読んでも、納得できる。
- ・ 学ぶことや参加することそのものが、地域の活性化に結びつくという部分がよい。

（方針1）誰もが「自分らしく」学べる教育の推進

- ・ 主語が、区長なのか、地域の皆さんなどになるのかなど、整理した方がよい。
- ・ 「全員が参加する」という表現だと、強制で参加しなければならないととらえられる可能性がある。参加も「自分らしく」「参加できる」とした方がよい。
- ・ ライフスキル(日常の問題に建設的・効果的に対処する力)も含めた教育という視点を盛り込んでほしい。
- ・ 方針の1と2を入れ替えた方がよい。

（方針2）「中野らしさ」をいかした教育を推進する

- ・ 教員や地域の人々も子ども達と共に学び合えるというような方向性で検討を進めてほしい。
- ・ 「大人も学びの楽しさを感じている」という表現が加わると区民全体の教育だと明確になる。
- ・ 子どもの主体性が認識されている。「生きる力」のところに、子どもの「地域参加」も示されるとよい。
- ・ 今後は学校と地域は「連携」のみではなく、「一体化」していくようなイメージがある。「連携」で終わらせないでほしい。

（方針3）学びの環境を整備する

- ・ 地域の方々の健やかな生活を支えるという意味では、文化・芸術に加え、「スポーツ」という言葉を含めた方がよい。
- ・ 学校教育と社会教育の垣根をなくしていくことができる、という発想なら先進的になるかもしれない。
- ・ 文化・芸術やまちの伝統に触れあったり、親しめる環境、参加できる環境が大事である。

2 区民と区長のタウンミーティングの開催結果（令和4年8月24日）

■主な意見（テーマ 中野の教育について ～教育大綱の改定に向けて～）

- ・大綱の理念には、時代の変化をとらえるような表現を入れた方が良い。
- ・子ども達だけでなく、全ての区民が関係する社会教育や生涯学習を充実させてほしい。
- ・子ども達の興味や関心の分野から、自ら選び決めることができる教育の場を確保してほしい。
- ・主体性、主権者教育の場の確保が必要である。
- ・「中野らしさ」を活かした教育を推進してほしい。
- ・年齢、国籍、性のあり方及び障害の有無に関わらず、相互理解・多様性が尊重されることが重要である。
- ・コロナウイルスによって失った、学校、家庭及び地域のつながりを取り戻す必要がある。
- ・教員の働き方改革や、メンタルヘルスケアなど、教員自身の余裕と子どもと関わる時間を増やすことが必要である。
- ・学生や民間企業の人も教育に参加してほしい。
- ・孤立しがちなコミュニティ(LGBTQや外国人)とのつながりや交流の機会の創出が課題である。
- ・図書館、児童館及び空き家を活用して、保護者・子ども達の居場所を多く確保することが必要である。

3 中野区教育大綱(改定素案)について(案)

(はじめに)

今、私たちを取り巻く環境は、長引く新型コロナウイルス感染症による生活・経済への影響や、不安定化する国際情勢など、先行きが不透明で、将来の予測が難しいものとなっています。

これまでの日常が失われる中で、コミュニケーションや体験学習の機会が減るなど、子どもたちの学びを取り巻く環境にも大きな影響が出ています。

グローバル化が進む中で、世界的な諸課題についても、自らに関わるものとして捉えていく視点が必要となってきました。

加えて、デジタル化の進展など、地域の課題を解決しながら新たな価値をつくる、超スマート社会(Society5.0)を目指した取組も急速に進んでいます。

中野区は、数多くの国と地域からの人や、性的マイノリティ、障害のある人など、様々な個性や価値感を持つ人が暮らす、多様性にあふれたまちです。

また、子どもから高齢者まで、すべての世代が文化や芸術に親しみ、地域における学びや社会活動にも参加しながら、つながりを築いてきたまちでもあります。

誰一人取り残されることのない、安心できる地域社会を実現していくため、子どもたちの学びを地域全体で支え、ともに学びを進めていくことが重要です。

このようなまちの実現のため、この教育大綱を、中野の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や施策の根本となる方針として定めます。

(基本理念)

中野のまちの強みを生かし、一人ひとりの「生きる力」を高めていくため、
新たな中野区教育大綱では、

「つながりの中で、誰もが自分らしく学べるまち なかの」を基本理念とします。

- 学校や地域で、誰もが「自分らしく」学べる。
- 学びや参加の中で、人と人が「つながる」。
- そして、つながりの中で、「新たな活力」が生まれる。

(方針)

第1 誰もが『自分らしく』学べる教育の推進

～ 全員が参加できる社会の実現を目指し、学校・地域での学びを支援する ～

自己肯定感やチャレンジする力、学び合う心や健やかな身体が育つとともに、学びの場を通して社会参加が進み、自分らしく生きられるまちを築けるよう、学校教育や社会教育の場において、個性や学び合いを生かした教育を推進します。

第2 中野らしさを生かした教育の推進

～ 多様性と地域のつながりを強みにした教育を実現する ～

自己と他者への理解が進み、多様性が尊重され、地域とのつながりで子どもの「生きる力」が育つよう、学校と地域の連携、教育に関わる人材の育成などを進めます。

第3 学びの環境の整備

～将来にわたって学び続けられるよう、より良い教育環境を整える～

学びの場が確保され、誰にも学ぶ機会が保障されるとともに、文化・芸術・スポーツに親しめるよう、施設などの着実な整備や多様な学びの場づくりを進めます。